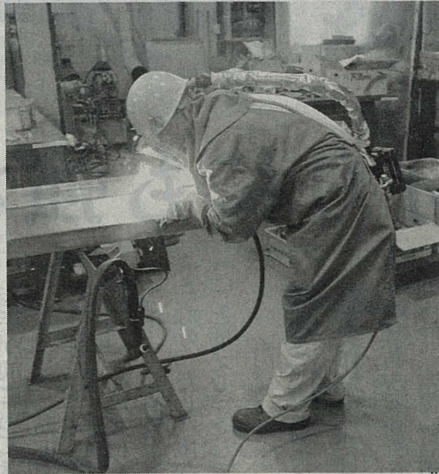


背中の細いチューブに開いた小さな穴から冷たい風が吹き出てくる(東大阪市のエクセラント)



「冷却服」導入 東大阪の工場

「溶接集中でできる」

最高気温が32度を超えた
 今年3日。大阪府東大阪市の
 の鉄道部品メーカー、エク
 セラントの工場では大型の
 扇風機と局所タイプのエア
 コンがフル稼働していた。
 35度前後に達する2階の溶
 接工程は少し様子が異なる。
 平田智也さん(29)は溶

接機の炎から体を守る厚手
 の作業服を着用しているに
 もかかわらず、涼しげな様
 子で作業を進める。その秘
 密は作業服の内部にある。
 青色の細いチューブを首・
 肩からぶら下げていた。こ
 の製品は東京都北区のジャ
 スタック工場企業、重松製
 作所の個人用冷却器「クー

社長「人材確保に必要」

レット」。10度前後に冷や
 された空気がチューブの小
 さい穴から出る。エクセラ
 ントは今春約6万円で2基
 購入。気温が上がり始めた
 4月ごろから使い始めた。
 平田さんは「キンキンに
 冷やしたエアコンの前で涼
 んでいる感じ。汗をかく量
 も減り作業に集中できる」
 と喜ぶ。昨年はスポットタ
 イプのエアコンと小型扇風
 機だったので「汗が止まら
 ず体力的にきつかった」と
 いう。
 熱中症対策など労働環境
 改善に対する経営者の意識
 も変わりつつある。エクセ
 ラントの秋本倫宏社長は
 「優秀な新卒社員を確保す
 るには暑さ対策など作業環
 境を良くする必要がある」
 と強調する。東大阪市内の
 金型メーカー経営者は「快
 適な職場で成果を上げても
 らいたい」と話している。